

画像色彩研究会

Special Interest Group on Color in Image (sig-CI)

<https://color-science.jp/image/labnews/>

主査 鈴木 卓治 (国立歴史民俗博物館)

e-mail: suzuki@rekihaku.ac.jp**“画像の色彩”に係わる問題に積極的に取り組む研究会です。2003年発足。****◆2022年度活動報告**

2023年3月18日に研究発表会を実施しました。研究発表2件、課題討論3件。

2022年11月27日に開催された色彩科学系5研究会合同発表会(令和4年度研究会大会行事)に参画しました。

◆2023年度活動計画

- 研究発表会を実施します(1~3月の予定)
- 研究会大会の合同研究発表会に参画します
- その他、コロナ禍の状況を見ながら、対面あるいはオンラインによる研究会企画を実施したいと考えています。

カラーデザイン研究会

Special Interest Group on Color Design

https://color-science.jp/color_design/labnews/

主査 酒井 英樹 (大阪公立大学)

e-mail: csaj.colordesign@gmail.com**実社会での色彩の具体的利用法の提案、個々人の色彩感覚技能の向上を目指します。****◆研究内容や研究会の構成**

カラーデザイン研究会は、色彩の科学技術の開発研究と表裏一体をなすものとして、実社会での色彩の具体的利用法の提案、さらに、個々人の色彩感覚技能の向上を目指すことを目的として活動しています。デザインのための色彩学を主題として、表色系や色彩心理などデザインの根幹に関わる事柄の勉強会や講演会、実社会での色の使い方、使われ方を体験する見学会などを企画して参ります。“色”に関わる様々な分野、立場の方々のご参加をお待ちしています。

2023年度は、秋の勉強会として、9月2日に稲葉隆氏に「配色をいかに整理するか - 色彩感情と実用性の視点から -」というテーマで、9月8日には吉村耕治氏に「日米の高校と大学に見られるスクール・カ

ラーの特徴」をというテーマで、それぞれご講演いただきました。「配色」に関する講演では、前半に配色を表色系で整理する、色彩調和の視点で整理する、多変量解析で整理する、色彩感情の視点で配色を整理する方法をそれぞれ解説いただき、後半はカラーイメージスケールを使って、配色を印象により整理する実習にチャレンジしました。「日米」に関する講演では、日本では単色が多いのに対して、米国では複数色が多い傾向があることが紹介され、その後、スクール・カラーに与える色名の影響などを討論しました。今後も、カラーデザイン研究会では、会員の皆様からの研究テーマ提案を随時募集しています。お気軽にご連絡ください。